

## 61 ジョン・ハンター再考

栗 本 宗 治

John Hunter 1728-93はウェストミンスター寺院に眠る、一八五九年死後六六年聖マーティン墓地から移された。ヒュームの遠戚、友にレイノールズ、門人にトマス・ヤング、エドワード・ジェンナー、アバネス、クーパー、ペイリーがあつた。ロイアル・コレジ・オブ・サージオンズ記す墓銘にいう「生命体に作用する神の力と英知の、恵まれたる理解者にして、科学的外科の建設者。その人類への貢献を称える。」

グラスゴウ近隣出身、兄ウィリアムと弟ジョンは若くしてロンドンに移った。ジョンは兄の解剖学校に学び、聖ジョージ病院にて研修をつみ、外科医として登録された。

聖トマス病院の Richard Mead 1673-1754は内科、聖トマスの Williams Cheselden 1688-1752、聖バーソロミユ病院の Percival Pott 1714-89は外科、それぞれの教育を充実した。

時代はジョンソン博士のイングランド、ピットは政治、ブラクストンはオクスフォード法学教授、ジャーナリズムの芽生え、フィールディング描く社会であつた。

ハンターは生前四著書、すなわち歯に関する二書、性病一書、論文集一書、および(死後の)主著炎症論をのこした。論文集には比較解剖・生物学他の数多の論文がふくまれる。それらはハーベイのようなオリジナリティには欠けるが、医学の広い分野における進歩であつた。医学への刺激としてハーベイ以後随一のものであつた。

さらにこれら論著にまさるものは数多のコレクションであつて、今日コレジ・オブ・サージオンズに蔵されるハンターリアン・ミュージアムである。内科系コレジ・

オブ・フィジシャンズの蔵するハーベイアン・ライブラリとともに、外科系への貢献として、双璧をなす。

コレジ・オブ・フィジシャンズはヘンリ八世治下メデイカル・アクトによつて、市民を不当な医師の行為から保護するため、医師の資格を医師自らが規制する制度として創設された。それが確立にはハーベイやフランシス・グリソンの功績があつた。

十八世紀、ウエストミンスター病院、聖ジョージ病院、ロンドン病院などが新設され、病院における教育、病院勤務医の職制規定が進んだ。ライデンに学んだ聖トマスのミードの貢献は大きい。この病院の世紀とよばれる背景における、ハンターの病理・外科への貢献は外科医の地位向上確立へと結果した。ヘンリ八世のギルド、コンパニ・オブ・バーバースージョーンズは一八〇〇年ロイアル・コレジ・オブ・サージョーンズ・オブ・イングランドへと脱皮した(医譚一九八五・四、日本医史学雑誌一九八八・四)。

生誕二五〇年を記念して、リンカンズ・インフィール

ズのコレジ・オブ・サージョーンズ・オブ・イングランドの前庭にジョン・ハンターの像がおかれた。コレジ正面を入れれば、つきあたりのハンター像は長年外科系医師をみつめてきた。今前庭の像は市民に語りかける。

(大阪医科大学麻醉科学)